

大学発マイクロ波論文特集の発行にあたって



大学発マイクロ波論文特集編集委員会

委員長 大久保 賢祐

大学発マイクロ波論文特集は、平成16年12月号の初回発行から16回目を迎え、今回は令和最初の発行となる。この間も情報通信に欠くことのできないマイクロ波・ミリ波技術の研究開発は弛むことなく続けられ、たとえば携帯電話の通信速度は3G初期の1 Mbpsから4Gの1 Gbpsへと高速化を遂げ、そして5Gの超高速・大容量へ進もうとしている。また、小容量・低消費電力のLPWAなどの開発も進められ、それぞれ適材適所の無線ネットワークによってあらゆるモノがつながるIoT時代が到来し人々の生活や産業構造をより豊かに変革しようとしている。

本特集には招待論文を含む論文4編とショートノート3編の計7編を掲載している。採択率は招待論文を除いて60%であった。招待論文はサムテック（有）/埼玉大学名誉教授の小林禱夫先生に誘電体丸棒試料測定に用いられる空洞共振器摂動法の高確度化への挑戦及び国際標準化に至る技術的背景について現在そして将来の日本の研究者・技術者に伝え残すべくご執筆頂いた。その他、固体プラズマを用いたサブミリ波漏れ波アンテナ、X帯広帯域疎結合ブランチャインカプラ、準ミリ波帯有極SIW帯域通過フィルタ、小型無人航空機と地上との電波伝搬特性、高等教育機関での実践的

な学生実験プログラム、準ミリ波帯VCOの低位相雑音化に関する幅広い内容の論文が掲載されている。

本特集は高等教育機関の研究成果を一般の論文と同じ厳しい水準の査読を経た論文として発信する場であり、また日本語での発信は我が国の技術研究の継承・人材育成に大いに貢献していると確信する。

最後に、本特集のために御投稿頂いた著者、編集・査読に御尽力頂いた編集幹事・編集委員ならびに査読委員、学会事務局の皆様には深謝する。

本特集が令和の時代を切り開くマイクロ波・ミリ波分野の研究者・技術者への一助となることを祈念する。

2019年12月13日web公開

大久保 賢祐（正員） 昭62京都工織・工芸・電子卒。平元同大学院修士課程了。平4同大学院博士後期課程了。平5岡山県立大・情報工・情報システム・講師。平9同大・情報工・情報通信・助教授。平26同教授。その間、フェライトを含むマイクロ波回路、電磁メタマテリアルを用いたマイクロ波回路、ホログラフィックレーダ等の研究に従事。平29-30 IEEE MTT-S Japan Chapter Vice-Chair。現在本会マイクロ波研究専門委員会副委員長、IEEE Hiroshima Section Chair。IEEE会員。博士（工学）。

大学発マイクロ波論文特集編集委員会

委員長	大久保 賢祐
幹事	鈴木 恭宜
委員	加保 貴奈・河口 民雄・佐藤 優・柴田 幸司
	清水 隆志・三谷 友彦・森 一富・日高 青路
	田中 高行・吉田 賢史